

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 3212 号	氏 名	佐々木 陽平
論文審査担当者	主査 角田 卓也 教授		
	副査 原田 浩史 教授		
	副査 坂下 暁子 教授		
論文題名：節外性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫における免疫組織化学染色による MYC 蛋白発現の検討			
掲載雑誌名(巻・号・頁・掲載年)：昭和学会雑誌(第 81 巻・第 4 号・令和 3 年 8 月予定)			
<p>リンパ節以外を primary site とする節外性リンパ腫（extranodal lymphoma, EL）はび慢性大細胞型 B 細胞リンパ腫（DLBCL）の 30%を占める。佐々木らは EL での MYC 活性化の指標としての MYC 蛋白免疫組織化学染色（MYCIHC）の有用性を検討した。</p> <p>対象とした 63 例の EL の primary site は waldeyer 輪、消化管など 18 臓器で、MYCIHC は血清 LDH 値と相関し、MYCIHC 陽性細胞 40%以上を示す MYCIHC-H 群（21 例）と 40%未満の MYCIHC-L 群（42 例）を比較すると、MYCIHC-H 群は進行病期や国際予後指標高リスク症例を有意に多く含んでいた。DLBCL に対する標準的治療（RCHOP 療法）施行後の全生存期間は MYCIHC-H 群で有意に短かった（$p = 0.0017$）。</p> <p>節性 DLBCL と比較し、節外性 DLBCL では MYC 活性化はより重要な意義をもつことが示唆され、本研究は MYCIHC が MYC 活性化を指標とした節外性 DLBCL の層別化治療構築に有用であることを明らかにした。</p>			
本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。			

(主査が記載)